

海外渡航報告書

平成16年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
海外渡航報告書

主任研究者 和田 清 (国立精神・神経センター精神保健研究所) 6/13～6/23

分担研究者 宮永 耕 (東海大学健康科学部社会福祉学科) 6/18～6/27

【1】 渡航先

ニューヨークおよびワシントンD.C.
(アメリカ合衆国)

【2】 渡航期間

平成16年6月18日～6月27日

【3】 渡航目的

薬物依存症治療は世界的にはTherapeutic Community (TC, 治療共同体) にて行われている。米国における治療共同体を実際に訪問し、その構造、人的配置、運営法等について実地調査した。その結果を報告書に掲載し、わが国の治療システムとしては欠落している治療共同体の必要性について、啓蒙的に公開した。

同時に、近年、規制薬物の取り扱いおよび使用について、Harm Reduction政策、大麻の医療使用が広まっており、わが国の政策を考える際の参考材料にするために、その一端の実情を視察した。

【4】 渡航旅程

6/13 成田発－ニューヨーク着 (和田)

6/14～6/17 研究集会参加 (旅費計上せず)

6/18 訪問機関名: National Development and Reserach Institute, Dr. Stephen Sifaneck, Ph.D.

【内容】 Ethnographic Reserachの考え方、手法について話を聞いた。(和田)

成田発－ニューヨーク着 (宮永)

6/19 訪問期間: A Medical Marijuana Buyer's Club, Dr. Stephen Sifaneck, Ph.D. 同伴

【内容】 Ethnographic Reserachの実践として、医療用の必要性からマリファナを使用する人たちが集まる場を訪問し、その実情を視察した。(和田)

訪問機関名; DAYTOP Village Inc.

Executive Director Mr. Aloysius Joseph

【内容】 アメリカにおける「治療共同体」のオリ

エンターションを受けた (宮永)

6/20 訪問機関名; DAYTOP International Inc.
Monsignor William B. O' Brien

【内容】 WFTC会長のW. O' Brien師に面会し、TCの世界連盟による活動及びアジア諸国でのTC活動の現状について聴取した。(和田、宮永)

6/21 訪問施設名; DAYTOP Rhinebeck Campus
(Manor House, Meadow Run, Fox Run, Springwood)

【内容】 4箇所のTC施設における施設見学とインタビュー調査を実施した。(和田、宮永)

6/22 訪問機関名; Phoenix Career Academy

【内容】 TC治療と職業訓練を統合したプログラムの実際について、施設の見学とインタビュー調査を実施した。(和田、宮永)

6/23 ニューヨークからワシントンD.C.への移動 (宮永)

ニューヨーク発 (和田)

6/24 訪問機関名; Second Genesis Inc. Anne Arundel and Co-Occurring Disorder facility

【内容】 ワシントン周辺の代表的TCであるSecond Genesisのメリーランド州施設を訪問し、施設の見学とインタビュー調査を実施した。(宮永)

成田着 (和田)

6/25 訪問機関名; Second Genesis Inc. D.C. Therapeutic Community (Harvard St.)

【内容】 ワシントンD.C.にあるSecond Genesisの成人男性TCプログラムの構造と現状について、インタビュー調査を実施した。(宮永)

6/26 ワシントンD.C.発 (宮永)

6/27 成田着

【5】 渡航成果

分担研究報告書の通り

分担研究者 阿部 恵一郎 創価大学 教育学部 教授

【1】 渡航先

カリフォルニア州 (アメリカ合衆国)

【2】 渡航期間

平成17年1月23日～1月30日

【3】 渡航目的

カリフォルニア州ヘイワード郡裁判所のドラッグ・コートで活躍しているホラ判事の裁判所を訪れ、ドラッグ・コートに関する説明を受けると共に、これまで扱った事例に関する情報を収集し、事例研究をした。その際、ドラッグコートが司法のダイバージョンとして成立するためには、治療プロバイダーの存在が欠かせない。ドラッグコートと連携している治療プロバイダーを訪問し、治療プログラムや治療の展開について具体的に知ることを目的とした。

【4】 渡航旅程

1/23 成田発—サンフランシスコ着

1/24 訪問機関名: Second Chance/ Patti Hart

【内容】薬物乱用だけでなく、精神疾患や虐待を受けたためにPTSDになった患者、いわゆる「二重診断」の患者を対象とした通所型治療プロバイダーを視察した。特に女性の薬物依存者のほとんどが性的虐待歴を持つという。具体的にミーティングに参加した。そこでは日本の様子を尋ねられることが多かった。

また、刑務所に入所中の女性を対象とするプログラムMOMSについても説明を受けた。

1/25 訪問機関名: OASIS/ Dr. Sylvestre

【内容】C型肝炎対策施設を視察。ドラッグコートとは直接に関わっていないが、多くの薬物依存者でC型肝炎に罹患している者が通所してくる。注射針の交換やミーティングを行っている。インターフェロンの投与、啓蒙活動、さらにホーム・リダクションもおこなう。エイズ問題は沈静化しつつあり、現在はC型肝炎が問題なのだという認識を得た。

1/26 訪問機関名: EBCRP. Residential treatment for women with children/ Janet

【内容】通所型と居住型を行っている治療施設の

視察、及び治療プログラムに関する調査。通所型の施設では、治療共同体的プログラムに対する激しい批判を聞いた。また居住型は、刑務所収容中の妊婦や出産間もない女性の乱用者を対象としている施設であった。このような試みはProposition 36(薬物中毒に関する法令)が成立してから、州全体で展開されているという。今やドラッグコートの治療システムよりもProposition 36による治療のほうが広く展開されていることを実感した。
1/27 訪問機関名: ①Outpatient methamphetamine program for dual diagnosis/ Anna

【内容】覚せい剤乱用者のための通所型施設を視察、及び治療プログラム(マトリックス)について説明を受ける。この日、訪問した施設で治療を受けていた3名が無事プログラムを終了し、裁判所で卒業式を迎えるという。

訪問機関名: ②Drug Treatment Court/ Judge Hora, Francine Byers

【内容】ドラッグコートの傍聴、ホラ判事の説明、及び資料提供。治療プログラムを終了した3名の卒業式に立ち会うことができた。また、独自に展開してきたホラ判事の治療プログラムは、今年の6月で資金提供が州から打ち切られるという話を聞く。Proposition 36の影響によること、さらにはイラク戦争の戦費が大きく影響しているとホラ判事は話している。

1/28 訪問機関名: Cronin House/Moses Ekpebe

【内容】居住型治療施設の視察、及び治療プログラムの説明を受ける。45日間の完全拘束型の男女共同型施設であった。歴史は古く1960年代に始まり、初めはアルコール依存症者の治療をおこなっていたという。裁判所の命令だけでなく、自らの意志で入所してくる者も受け入れている。自分の治療意欲があるほうが、はるかに改善は良いという。

1/29 サンフランシスコ発

1/30 成田着

【5】 渡航成果

分担研究報告書の通り

平成16年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
海外渡航報告書

分担研究者 宮永 耕(東海大学健康科学部社会福祉学科)

分担研究者 阿部恵一郎(創価大学教育学部 ~9/8)

【1】 渡航先

スペイン、イタリアおよびポーランド

【2】 渡航期間

平成16年8月31日~9月13日

【3】 渡航目的

薬物依存の治療は、世界的にはTherapeutic Community (TC; 治療共同体) をその中心に位置付けたシステムによって行われている。しかし、わが国においては、TCとして運営される施設は設置されておらず、情報が少ないこともあり、その概念についても社会的に広く知られるに至っていない。

ヨーロッパ諸国における代表的な治療共同体数カ所を実際に訪問し、その構造、人的配置、運営方法等について実地調査する。その結果を国内に公表することによって、わが国の治療システムとしては欠落している治療共同体の必要性について、啓発することが可能となる。

【4】 渡航旅程

8/31 成田発-マドリッド着

9/1 訪問機関名; Proyecto Hombre Madrid program SOPORTE、研修内容; スペインにおける「治療共同体」の概要把握と家族の外来プログラム見学

9/2 訪問機関名; Proyecto Hombre Madrid C.T. NAVALCARNERO、研修内容; PHの運営するMadridのTC施設見学と質疑(パルマ・デ・マヨルカに移動)

9/3 訪問施設名; Projecte Home Balears/C.T. SES SITJOLES、研修内容: PHの運営するマヨルカ島のTC施設見学とプログラム参加および質疑

9/4 訪問機関名; Projecte Home Balears/CASA OBERTA and ANDANA、研修内容; PHの運営するマヨルカ島のTC施設の見学と質疑、PH Balears会長Bartomeu Catala氏と面会

(ローマに移動)

9/5 FICT(イタリア治療共同体連盟)会長E gideo Smacchia師に面会し、実践状況に関する講義と質疑

9/6 訪問機関名; Centro di Solidarieta-L L PONTE、研修内容; チヴィタヴェッキアにある青少年および母子のTC施設を訪問し、施設の見学とプログラム参加、質疑(ジェノバに移動)

9/7 訪問機関名; Centro di Solidarieta Genova (CSG) TRASTA共同体、研修内容; ジェノヴァのCSGが運営する成人TCプログラムの体験と質疑

9/8 訪問機関名; Centro di Solidarieta Genova FASSALLO、研修内容; CSGによる様々な困難を抱えた集団に対するTCプログラムの見学と質疑、CSG会長Bianca Costa Bozzo氏と面会

9/9 訪問機関名; CTN MONAR Krakow、研修内容; クラクフに移動後、MONARが運営する成人用TCプログラム見学、MONAR Krakow代表Mark Zygodzko氏による講義と質疑(グリヴィチェに移動)

9/10 訪問機関名; FAMILIA共同体、研修内容; グリヴィチェにあるFAMILIAが運営する入寮TCプログラムの体験、ピトムの青少年TCプログラムの見学と質疑

9/11 訪問機関名; FAMILIA共同体、研修内容; グリヴィチェにあるFAMILIAが運営するTC治療導入段階の実践と家族教育プログラムの見学と質疑、FTCCBE(東中欧TC連盟)会長Andrzej May-Majewski氏による講義と質疑

9/12 クラクフ発(フランクフルト経由)

9/13 成田着

【5】 渡航成果

分担研究報告書の通り

平成16年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)
海外渡航報告書

分担研究者 宮永 耕 (東海大学健康科学部社会福祉学科) 1/18~1/31
分担研究者 庄司正実 (目白大学人間社会学部) 1/23~1/28

【1】渡航先

コロンビア、サンフランシスコ (米国)

【2】渡航期間

平成17年1月18日~1月31日

【3】渡航目的

薬物依存の治療は、世界的にはTherapeutic Community (TC; 治療共同体) をその中心に位置付けたシステムによって行われている。しかし、わが国においては、TCとして運営される施設はなく、情報が少ないこともあり、社会的に知られるに至っていない。

南米における代表的な治療共同体と修正型TCプログラムを積極的に展開するサンフランシスコを実際に訪問し、実地調査した。その結果を国内に公表することによって、わが国の治療システムとしては欠落している治療共同体の必要性について、啓発することが可能となる。

【4】渡航旅程

1/18 成田発-メデジン着 (ダラス、マイアミ経由) (宮永)

1/19 訪問機関名; Fundacion Hogares Claret,
【内容】FLACT (中南米TC連盟) 会長Gabriel A. Mejia師によるコロンビアにおける薬物問題及び「治療共同体」の講義と質疑 (宮永)

1/20 訪問機関名; CASA CLARET, HOGAR CLARET de ACOGIDA, HOGAR CLARET la LIBERTAD,
【内容】Hogares Claretが運営するメデジンの3箇所のTC施設見学と質疑 (宮永)

1/21 訪問施設名; Universitaria LUIS AMIGO, Centro de Desarrollo HUMANO,
【内容】LUIS AMIGO 大学の専門職養成プログラムと大学付属の外来TC施設の見学と質疑 (宮永)

1/22 メデジン (マイアミ経由) サンフランシスコ間の移動

1/23 訪問機関名; カリフォルニア大サンフランシスコ校 (UCSF)

【内容】根本透準教授に面会し、サンフランシス

コでの薬物問題の状況に関する講義と質疑

成田-サンフランシスコ着 (庄司)

1/24 訪問機関名; AARS-Program ADAPT, Residential TC,

【内容】アジア系アメリカ人を対象とした外来プログラムと入寮TC施設訪問と施設見学及び質疑

1/25 訪問機関名; WALDEN HOUSE Inc. Adult Residential, Adolescent Residential, Day Treatment Facility, 研修内容; 西海岸最大のTC施設による成人及び青少年入寮施設と通所外来型複合施設のプログラム見学と質疑 (宮永、庄司)

1/26 訪問機関名; DELANCEY STREET Foundation, UCSF-STOP Program,

【内容】労働参加を中心とした独自の共同体運営を行うDELANCEY St. とUCSFが運営する外来クリニックにおけるプログラムの概要解説と質疑 (宮永、庄司)

1/27 訪問機関名; BAKER PLACE Inc. - CAMEROT Residence / HAIGHT ASHBURY Free Clinics-SMITH HOUSE / SMITH RYAN,

【内容】ホームレス依存者の居住確保プログラムと、HIVを有する女性依存者への入寮プログラムに関する講義と質疑 (宮永)

サンフランシスコ発 (庄司)

1/28 訪問機関名; Program TRANS, SF Needle Exchange Site,

【内容】性転換者のための依存症回復援助プログラムと、サンフランシスコ市がNPOに委託して行うハームリダクション対策実践の見学と質疑
成田着 (庄司)

1/29 訪問機関名; St. HELENA Center for Health, 研修内容; カリフォルニア北部にある民間医療機関で行われる依存症治療プログラムの見学と質疑 (宮永)

1/30 サンノゼ発 (宮永)

1/31 成田着 (宮永)

【5】渡航成果

分担研究報告書の通り

(別掲5)

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体 編集者名	書籍名	出版社 名	出版地	出版 年	ペー ジ
なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻	ページ	出版 年
和田 清	有機溶剤吸引の入り口としての喫煙：1994年千葉県中学生調査より。	学校保健研究	45	512 -527,	2004
Hirabayashi, N., Wada, K., Kimura, T. et al.	Prevalence of Substance Abuse among Patients with Physical Diseases Seen in an Emergency Room in Japan.	The American Journal on Addictions	13	398 -404,	2004
和田 清	医療モデルの違いとしての精神作用物質依存症治療	精神科治療学	19	1281 -1287	2004
和田 清	論説 喫煙、飲酒、薬物乱用の実態と教育における対応	中等教育資料	823	20-25	2004
和田 清	薬物乱用の実態と傾向について。	厚生労働	59	17-20	2004
和田 清 尾崎 茂	連載 心の健康に関するお役立ち情報 最終回。各職種が情報を共有し効果的な薬物乱用防止策を！	公衆衛生情報	64	42-45	2004
尾崎 茂	物質依存の時代変遷と現状	精神科治療学	19	1289 -1296	2004
庄司正実	青少年の薬物乱用について	心と社会	117	25-30	2004
庄司正実	児童自立支援施設入所児童の有機溶剤乱用に対する態度およびその他非行の現状－1998年から2002年の児童自立支援施設薬物乱用調査－	目白大学心理カウンセリングセンター紀要	2	3-11	2004
森田展彰	薬物依存症に対する心理社会的治療－セルフヘルプ型のケアと心理教育プログラムの統合について－	精神科治療学	19	1395 -1404	2004
宮永 耕	物質依存者のための治療共同体－アメリカモデルについて－8	精神科治療学	19	1411 -1418	2004

平成16年度厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

薬物乱用・依存の実態と
その社会的影響・対策に関する研究
(H16-医薬-062)

研究報告書

主任研究者：和田 清（国立精神・神経センター 精神保健研究所）

2005年3月31日 発行